

日刊 動労千葉

86. 5. 28

No. 2251

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

期末手当費用は差別・選別・分断を許すな

動労千葉「申第32号」を發出して、 断固たる抗議と追及（5/28）

国鉄当局は五月二七日「夏季手当及び年末手当の支払方法」についての提案を行ってきた。細部については『交渉ニュース』等で明らかにするが、最大七五%も手当をカットされるという内容であり、動労千葉は当局に対し、先に申し入れた「動労千葉申第30号」にもとづき、八六年度夏季手当について二八日、従来通り支払うことを求めた「申第32号」を發出、申し入れを行った。

賃金差別で「職場規律の 総仕上げ」を狙う

期末手当の支払方法についての提案は第一に、「民営化へむけて職員の意識改革」を狙いとしたものであるが、当局は「人事管理の手法としての効果は大きく、職場規律点検の仕上げとして機能させた」といつている。ここに本当の狙いがあるのだ。

第二に、この「提案」の骨子として期末手当支給にあたって、勤務成績と欠勤日数に応じた減額制度からなる査定制度を導入する、ということからなっている。具体的には、①勤務成績の優秀な者は五%アップ、良好でない者は五%カットする。②欠勤、労働処分について日数が最大九一日以上で七〇%をカットするというものである。

差別をもちこみ競争・ 対立をあおる攻撃

この攻撃は、賃金問題を通して労働者間に差別・分断をもちこみ、労働者間に競争と対立をあおり、そして職場規律の強化とマル生分子の輩出で最終的に国鉄労働運動をたたきつぶそうという攻撃なのだ。この「提案」がいかに反動的なものであるかは第一に「職員管理調書」が

選別の基礎材料とする目的で作成され、明らかに組合役員・活動家等を排除し、解雇に追いやる攻撃としてかけられてきたことと同じ質をもっていることに加え、当局にゴマをする者を成績優秀者、「分割・民営化」に反対する者を不良者として賃金で差別する。第二に、当局の「分割・民営化」のなし崩しの既成事実化づくりが強行されるなかで、国鉄労働者の不安が増大し、昨年だけでも四五名以上の職員が自殺に追いやられた。こうした中で国鉄労働者にとって最も切実な賃金を差別・選別の材料として悪用しようというのだ。

労働者として生きるか 奴隷となるのか

この「提案」は、当局の言う「信賞必罰の導入」とか「民間なみ」等では決していない。「分割・民営化」に反対するのか、賛成するのか、労働者として生きるのか、奴隷となるのか、ということだ。

動労千葉は、国鉄における従来からの慣行を無視し、「分割・民営化」一十万人首切りを行うための選別・差別の手段として賃金問題を利用しようとするものであり、労働組合としてこの「提案」は容認することがどうしてできようか。